

株式会社 今井産業



一流デザイナーが手掛ければ、『e・wood+』の波形ボードを使って表現する空間デザインは、こう進化するのか——。サーフィンを連想させる盛り上がった大きな波。今にも波頭が崩れそうなりねりの連続。高さ1.8m、長さ20mの波形ボードを湾曲させたウエーブを背景とし、そこに家具・器具の什器を展示する店舗空間を創出する——そのデザインのダイナミックな斬新さ(写真)。実はこれ、2019年に東京ビックサイトで開催予定の、IFFT(インテリアライフスタイル・リビング)に出展する『e・wood+』のブースのデザイン図である。IFFMとは海外商談会の登竜門で、そこから世界へ向けて発信する計画なのだ。県産スギやリンゴ樹の端材を活用して生まれた青森県発の新素材『e・wood+』が、今や世界へ羽ばたこうとしている動きを追った。

青森県発の新素材が世界へ羽ばたく amazonで「キット商品」を通販

紙のダンボールが潰れず丈夫なのは、「波形」の構造に秘訣がある。(株)今井産業(建築材料卸売業、平川市)の今井公文社長は、そこに目をつけた。これを「木」で作れないか——。厚さ0.5mmの薄板が、高さ6mmの波形を描いて製造機械から押し出されてくるまで6年。丈夫で、軽く、水に強い、という木の特性を生かした新素材『e・wood+』の誕生であった。

開発からさらに6年。東京ではすでに、東急ハンズで①波形ボード②ハニカムボード(断面が蜂の巣のような形状)③木製ダンボール(波形ボードの表裏に単板を貼付)——の3種類が部材として販売中だ。鳥屋家電では『e・wood+』製の照





髙屋家電で展示・販売されている『e-wood+』製の照明器具



ルックスボルティフ大手町のディスプレイ棚に使用されている『e-wood+』

明器具を展示販売。また、六本木オフィスピルの内装や、大型店舗のディスプレイ棚にも採用されるなど多様な広がりを見せている。

ここにきて、大きな進展があった。2018年3月、ネット通販の最大手『amazon』と提携したのだ。amazonといえば、ネットつながる巨大なショールームのようなもので、そこから『e-wood+』製商品が世界へ発信されることになるのだ。

「売れることが、ものづくりの原点です。開発するだけでは試作品が倉庫に溜まるだけです」と今井社長。何が売れるか。完成



㊤木製段ボール㊦波形ボード㊧ハニカムボード

品なら世の中に溢れている。買う、のではなく、自分で作る。イストかテーブルとか。工具やビス・留め金具を使用せずに、一般消費者が楽しみながら組み立てる——「キット商品」。

試作段階というイスが、今井産業のショールームに展示されていた。大人1人がゆったりと座れる大きさなのに、背を掴んで持ち上げたら、拍子抜けするほどに軽い。この軽さが『e-wood+』ならではの特徴。組立式だからアウトドアでも使え、用途は広い。現在、地方独立行政法人・青森県産業技術センター・弘前工業研究所と共同で売れる商品を開発中。照明



『e·wood+』製の製品が展示されている六本木木オフィス

器具やリビングボードなど全部で10品目を商品化する予定という。

「組立キット商品」に至った経緯には、一般消費者から寄せられた「思わぬ反響」が影響している。2年前のこと。東急ハンズで『e·wood+』の部材を購入した消費者から、窓口のウッドメーカージャパン(『e·wood+』の流通を担当する今井産業のグループ企業)に、ネット上で要望が寄せられたのだ。照



明器具のキットとして販売してほしい、と。自分で作ってみたら部材をカットするのに苦労したので、キットなら組み立てやすい、と。

「何件も寄せられた要望の多くが照明器具でした。それは薄板に光が当たると、木目がきれいに浮かび出るからでしょう。『e·wood+』の特徴を生かしたアイデアをお客様から教えられた思いでした」と今井社長は振り返る。



『e·wood+』製のキットを使って組み立てられた椅子やテーブル

amazonと並ぶ、もう一つの大きな展開が「海外進出」(欧州、北米、中国)だ。今井社長がA3サイズの写真をテーブルに広げた。それが冒頭の、大きな波のようなデザイン図であった。

「店舗空間をこのようにデザインして、2019年11月に開催されるIFFTに展示するのです。そのブースのデザインがこれなんですよ」

デザインを手がけたのは、『e·wood+パートナー会』会員のデザイナー(山路建築設計事務所)だ。コンセプトは『優美な曲線を描く波板ボードがつくる、素材の特性を生かしたダイナミックな展示空間』。高さが1m80cmあるボードを波のように湾曲させると、自重で折れ曲がってしまうが、縁にアルミ板を張り付ければ可能、という。

「IFFTは海外商談会(ドイツ・フランクフルト国際見本市)の登竜門で、2015年、



2017年開催の「店舗商業空間展」での出展ブース

2016年と2度『e・wood+』を出展していますが、当時はまだ販売できる商品がなかっただけに、次には……と今井社長のかける意気込みは熱い。

寄せられるアイデア “売れる”商品生み出す

今井社長が新素材の開発に取り組んだきっかけは、「地元

工務店の強化に必要なものはオリジナル商品だ」という先見の明だ。2000社から成る『e住まいネットワーク21』の会員に対し、店舗什器、建材・内装材に活用できるオリジナル商品を提供しよう、と。

開発した『e・wood+』を、東京から発信することにした。2012年、東京ビックサイトでの「産業交流展」に初出

展。「木のダンボール」が企業関係者の関心を集めた。面識を得た関係者たちが、2013年に出版した「第8回国際雑貨EXPO」と「インテリア・ライフスタイル展」にも訪れ、その交流から「可能性を秘めた新素材」のブランド化を目指す「パートナー会」の結成へと発展した。家電販売など全国販売規模の中堅企業から成るパートナー会は、ここ6年の間に当初の倍の20社に増えている。

「これまでの名刺交換による顧客名簿は300件以上に達しています。その中からパートナー会に入会する企業も増えてきました。さまざまな業種の、いろんな人たちから寄せられるアイデアは実に豊かで、それらの中から“売れる”商品が生み出されるのです」

「紙」から「木」に替えて誕生した『e・wood+』の“素材の魅力”が、今までになかった新しい局面を切り拓いている。



自然のぬくもり暮らしの中に

株式会社 **今井産業**

本

社 ● 平川市新館藤山16-1

TEL.0172-44-2145 FAX.0172-44-2568

<http://www.nijiironomori.net>

弘前常設展示場 ● 弘前市泉野3丁目16-4

TEL.0172-55-0440 FAX.0172-55-0441

E-mail: lp-genki@clear.ocn.ne.jp

青森常設展示場 ● 青森市富田4丁目12-22

TEL.017-752-0981



薪ストーブの専門店

Wood rack ウッドラック

浅虫に薪ストーブショールーム開店 チェンソーも斧も揃う「火」の駅

ここに来れば、世界の主だった薪ストーブが揃っている。ペチカも、クッキングストーブも、ペレットストーブも、チェンソーや薪割り機まである。道の駅ならぬ、ここは「火」の駅だ。



場所は、浅虫の東消防署浅虫分署の隣。薪ストーブプロショップの『ウッドラック』が青森市自由ヶ丘から移転、新ショールームがオープンした（2018年10月）。建物が黒い板壁で、片流れの屋根から煙突が6本も突き出ている、およそ一般住宅とは違う外観から、近所では「パンケーキ屋さんかも」と、うわさになったとか。中に入れば、紛れもない薪ストーブショップで、ベルギー製の「ネスターマーティン」と「ダブル」、アメリカ製の「ハースストーン」、ノルウェーの「ヨツール」、スペイン製の「ヘルゴン」、デンマーク製の「モルソー」などなど世界各国の薪ストーブが約20



炎がかけろうのように柔らかなネスターマーティン TQH33

台並ぶ。2階には斧や、着火材などの関連グッズコーナーも。青森県内に薪ストーブ専門店は数店しかないが、フィンランド製のペチカ「TIERLEIRI」（ティレリ）を扱っているのはウッドラックだけ。フィンランドから職人がやってきて2日ばかりで組み立てたとか。漆喰と珪藻土を交ぜた大きな炉体の内側に積まれたレンガに熱が蓄熱され、火を落としてからも放熱で室内が2日間も暖かいというから驚きの省エネ性だ。相馬壮代表がウッドラックを興したのは2010年。それから8年間の足取りを、あおもり産木材地産地消ガイドブック『青森県産材でエコな家づくり』で見ると――「20年間勤めた住宅業界から薪ストーブ屋に転身」（2011年発行）、「津波で倒れたマツで薪づくり」（2012年）、「あきこはうすに仲間たち結集」（2013年）、「北海道で北の煙突掃除人集会」（2014年）、「薪ストーブの設置は専門業者に」（2015年）、「新規設置、メソッドに県内走り回る」（201



クッキングストーブ



ペレットストーブと薪ストーブの競演



マニア垂涎の薪ストーブが一堂に



チェーンソーコーナー



薪割りの斧もいろいろ



青森県内ではウッドラックでしか扱っていないというベチカの「ティレリ」

■お知らせ
 営業時間は10時～17時までとなっておりますが、留守もあるため見学を希望される方は日時を電話で予約できます。
 電話080-5556710965(相馬壮)
 また営業時間後でも対応致しますのでお立ち寄りください。

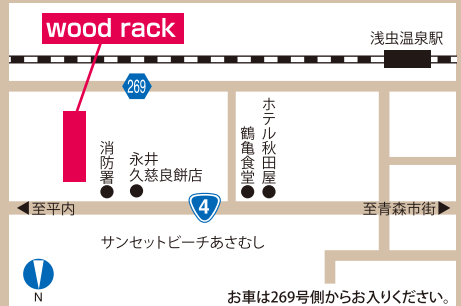
7年、「青森県産材の家」に改題、「創業8年間で薪ストーブ300台(2018年)」。重さ100kgを超える薪ストーブを、スタップの石村真弓さんと2人がかりで300台以上も県内に増やしてきたのだ。その数だけ夏場はメンテに回る。
 「オープニングイベントには函館の仲間や、9社ものメーカーさんたちが応援に駆け付けてくれました。ユーザーで組織するウッドラックオーナーズクラブの面々もきてくれて大助かりでした」と感謝する相馬代表。これからは浅虫を拠点に、販売からメンテまでの頼れるプロショップとして「炎の輪」をさらに拡げていく。

薪ストーブと木の雑貨
Wood rack
 ウッドラック

青森市浅虫坂本51-9
 TEL.017-752-0133 FAX.017-752-0134
 E-mail : info@woodrack.jp



ウッドラック
 オーナーズクラブマーク



お車は269号側からお入りください。